

Begleiten 102号



2018. 5. 12

もう一回り、取り組みを広げよう！

被爆者国際署名と、「安倍改憲 NO! 憲法を活かす全国統一署名

代表世話人 関根 和彦

五月晴れが続く連休でしたが、みなさまのようにお過ごしでしたでしょうか。

私たちが暫しの休息を取っている間にも、6月12日にシンガポールで開かれることになった米朝首脳会談や、5月22日に予定されている米韓首脳会談に向けて、中朝、日中韓首脳会談などが行われ、朝鮮半島非核化、南北共存に向けて、北東アジアは急速に平和に向かって歩み始めています。

一挙に非核化を進めようとする米国と段階的に見返りを求めつつ非核化を進めようとする北朝鮮の思惑には、まだ大きな隔たりがあり、楽観は許されませんが、米朝は着実にその隔たりを詰める水面下の交渉を積み重ねているようです。

米朝がチキンレースをやっていた時代の主張をそのまま引き継いで、何の主体性もなく、「完全非核化までは最大限の圧力を」とばかり主張する日本の安倍政権は、完全に取り残されてしまっています。

国内でも、柳瀬唯夫氏が参考人として国会に出席しましたが、加計ありきの疑惑は深まるばかり、自党内からも安倍首相の責任を問う声が出始めています。しかし安倍首相と自民党の幹部たちは、なおも安倍三選を目指し、「今国会でできなくても、年内の早い時期に憲法「改正」発議をめざす」と強弁し、安倍政権下での改憲発議の方針にしがみついています。

国際的にも、国内政治でも、正常な感覚を失った政権の下、私たちはどう考え、行動すれば良いのでしょうか？

5月10日、市民連合は「「あたりまえの政治」を求めて」という声明を発表しました。

声明の中で、「2018年5月8日より国会が「正常化」したとの報道が相次いでいますが、そもそも国権の最高機関である国会において虚偽答弁を繰り返し、また国会に提出する公文書の改ざんを行い、さらには国会のチェックを免れるためにそうした事実を隠蔽し、正常な国会審議の前提を壊してきたのは、ほかならぬ安倍自公政権です。今後、本当の意味で国会が正常化するかは、ひとえに政府が国会に対して誠実に説明責任を果たすかにかかります。言うなれば、政府の「正常化」が未だ求められています。」とし、「私たち市民連合は、これからも立憲民主党、日本共産党、社会民主党、自由党とさらに意見交換や政策協議を重ねるとともに、立憲主義の擁護、安保法制の廃止、9条改悪の阻止、個人の尊厳を擁護する政治の実現という大原則の共有を前提に、新たに無所属に転じた立憲議員との対話を求め、国民民主党についてもその基本理念を確認し、市民と立憲野党の共闘をいっそう大きく力強いものにしていく可能性を模索します。」と結んでいます。

また、5月8日、全国市民アクションは、「1350万人を超えた！さらに3000万人をめざそう」という呼びかけを発表しました。

この中で、「安倍首相のもとでの9条改憲」は世論の過半数が反対し、「安倍4項目」の改憲案は自民党でも最終案にならず、衆参の憲法審査会でも議論とならず、安倍首相が最短距離としてめざしていた「今国会での改憲発議」は事実上、不可能となりました。実質的に約半年で達成された1350万人超の署名は、大きな成果をあげたと言えるでしょう。」とし、さらに、

「しかし安倍首相と自民党改憲本部の幹部たちは、なおも「今国会でできなくても、年内の早い時期に発議をめざす」と強弁し、安倍政権下での改憲発議の方針にしがみついています。「安倍9条改憲NO!」の運動は、大きく広がってきましたが、まだ勝負はついていないのです。彼らに憲法改悪をあきらめさせ、退陣に追い込むためには、私たちは手を緩めず、もうひと押しふた押しの努力が必要です。」としています。

ベグライテンは、これまで核兵器禁止条約の承認と批准を求める被爆者国際署名と、「安倍改憲NO! 憲法を活かす全国統一署名」に取り組んできましたが、今こそこの署名運動を一段と強化する時なのではないでしょうか？

5月10日の市民連合の声明、5月8日の全国市民アクションの呼びかけをこの会報の付録として付けましたので、ぜひ全文を読んで、署名運動をもう一回り広げて行こうではありませんか。

◇◇ベグライテン 5月公共例会 講演+若者によるシンポジウム◇◇

この3, 4年間、私たちはさまざまな形で戦争の危機につながる問題に直面してきました。例えば、安倍政権の「集団的自衛権」容認、北朝鮮の核実験・ミサイル発射、トランプ政権登場による米朝のチキンレース etc. . . そんな中で、平和がおびやかされる危険が迫ってきています。しかし、その変化は明確にとらえにくく、難しい部分があります。それでも、私たちは、難しいからと言って目を背けたり、問題を先延ばしたりするわけにはいきません。私たちはこの流れを食い止め、平和へ向けた第一歩をどう踏み出すか？自分達のフィールドでアクションを起こしている若者たちの意見も聞き、皆で考えてみませんか。

シンポジウムのご登壇は、畠山澄子さん（ピースボート）金子聖奈さん（ブリッジ・フォー・ピース）森田果奈さん幸地清さん、（沖縄の基地を引き取る会・東京）太田永介さん（東京高校生平和ゼミOB）蘆名伸明さん（ベグライテン）の皆様です。イベントの終了後には、シンポジストを交えて懇親会も予定しています。

【講師】雨宮処凛さんの基調講演（60分）+若者の皆さんによるシンポジウム（100分）

【基調講演講師プロフィール】作家・活動家 近著『不透明な未来についての30章』（創出版）。

いじめやリストカットなど自身も経験した「生きづらさ」についての著作から、イラクや北朝鮮への渡航など、平和・安全保障まで幅広く活躍される雨宮処凛さんに、平和へ向けた一歩をどう踏み出すか伺います。

【テーマ】「平和のために私たちは何をすべきか」

【日時】5月12日（土） 午後13:30～16:30

【場所】上智大学四ツ谷キャンパス 6号館3階 302教室

【参加費】1000円（障がい・生保のある方 500円） 学生 無料

【主催】ベグライテン HP: <http://begleiten.org/> FB: <https://ja-jp.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB: <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学 哲学科

◇◇ベグライテン セミナーのご案内◇◇

ケアの哲学入門講座 2018

◇ケアの人間学 ～いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ～(第2回)◇

宮子あずささんをお招きして「臨床で働くということ～選択を巡る苦悩を引き受ける」

ケアの営みは、限りあるいのちを生きる私たち人間が、その「弱さ」ゆえに与えられた豊かな可能性です。しかし私たち一人ひとりが、ケアを見つめ、引き受けていかなければ、その豊かさは容易に損なわれ、見失われてしまうでしょう。

本年度の講座では、昨年度の「ケアの哲学入門」に引き続き「ケアとは何か」という根本的な問いを大切にしながら、人生の様々な場面に即して、いったいどのような「ケアの姿勢」が私たちの生(いのち=暮らし)をつなぎ、支えていくのかを、様々な角度からご一緒に考えてまいります。

第2回目には、看護師の宮子あずささんをお招きしてお話を伺います。東京新聞の「本音のコラム」で健筆を奮われておられる宮子さん。反響を呼んだ成人式の晴れ着に関するコラムを含め、どれを読んでも腑に落ちる、思わずうなづく内容ばかり。

宮子さんからは、10年ほど前に、お母さまの吉武輝子さんの介護にまつわるお話など、聞いたことがあるのですが、昨今のご著書など拝読、もう一度聞きたいなあとご登壇を御願したところ、大変魅力的なサブタイトル頂きました。「臨床で働くということ～選択を巡る苦悩を引き受ける」

宮子さんによれば、「病むことに関わる大変さは、常に意思決定を迫られるからだと思うのです。そのあたりをお話できればと思います。」とのこと。夫急逝後、実母、姑102歳で大往生の舅を看取った身の私のように、当事者の目線の方、看護業界でない方にもきっと響くお話だと思います。

是非お越し下さい。

【日時】2018年6月17日(日)14時～16時半

【場所】上智大学 四ツ谷キャンパス 6号館202教室 ★会場は変更の可能性があります。

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

(JR中央線・東京メトロ丸の内線・南北線四ツ谷駅麴町口・赤坂口から徒歩5分)

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

【申し込み方法】要申し込み。氏名(ふりがな)、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入し、「ケアの哲学講座 希望」と記載のうえ、次の方法でお申込みください

【フォーマットによる申し込み】<https://goo.gl/forms/uTEYCpCdAtFFEzPm1>

【FAXによる申し込み】050-3737-2636 後藤哲男 宛て

(会場変更の場合は、申込者にご連絡するほか、HP、FBに掲載しますので、ご注意ください。)

【テーマ】臨床で働くということ～選択を巡る苦悩を引き受ける

【講師】宮子 あずささん

【講師プロフィール】東京厚生年金病院に22年勤務。経験は内科、精神科、緩和ケアの3病棟。看護師長歴7年。看護師として働きつつ、看護雑誌を中心に文筆活動、講演を行う。

1963年 東京・杉並生まれ。都立大泉高校卒業。1983年 明治大学文学部文学科日本文学専攻中退。

1987年 東京厚生年金看護専門学校卒業。1987年から2009年3月まで、東京厚生年金病院に22年勤務。経験は内科、精神科、緩和ケアの3病棟。看護師長歴7年。また、在職中から、大学通信教育で学び、短期大学1校、大学2校、大学院1校を卒業。経営情報学士（産能大学）、造形学士（武蔵野美術大学）、教育学修士（明星大学）を取得。2013年 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。博士（看護学）。博士論文「看護師の実存から探る看護の本質と、それを職業として生きる意味」。

【主著】『両親の送り方—死にゆく親とどうつきあうか』（さくら舎、2016/8）

『訪問看護師が見つめた人間が老いて死ぬということ』（海竜社、2015/9）

『看護師という生き方』（ちくまプリマー新書、2013/9）

『お世話する人・される人がラクになる介護』（PHP研究所、2013/9）

『看護師専用お悩み外来』（医学書院）『ナース主義！』『ナースな言葉』（集英社文庫）

『人生に必要なことはぜんぶ看護に学んだ—宮子あずさのサイキア・トリップ』（医学書院）

『気持ちのいい看護』（医学書院）『看護婦が見つめた人間が病むということ』

『患者さんのやわらかい見方1・2・3』『元気が出る看護論』（日本看護協会出版会）

『看護婦が見つめた人間が死ぬということ』（海竜社・講談社文庫）

『看護婦泣き笑いの話』（講談社文庫）『看護婦だからできること I・II・III』（リヨン社・集英社文庫）

【参加費】1,000円（学生/障害・生保のある人 500円）

終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。（各自が飲食した分をお支払いいただきます。）

【主催】ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> <http://begleiten.org/>

ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学 哲学科

【問い合わせ】関根 090-9146-6667 入江 ANA71805@nifty.com

◇マギーズ東京」訪問してみませんか？◇

がんとともに生きる活動を進めている「マギーズ東京」を訪問する会を昨年に引き続き、今年も企画いたしました。5月と6月にそれぞれ1回、予定しています。

「マギーズ東京」は、がんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が気軽に訪れて、安心して話したり、また自分の力を取り戻せるサポートもある。それがマギーズ東京です。自然を感じられる小さな庭やキッチンがあり、病院でも自宅でもない、第二の我が家のような居場所。潮風を感じながら、自由にお茶を飲み、ほっとくつろぐことができるマギーズ東京の「ヒューマンサポートティブケア」を体験してみたい・・・という声を受けて、企画いたしました。

「暮らしの保健室」訪問会でもお世話になった秋山正子先生（マギーズ東京 センター長）はじめ関係者のご厚意により実現したものです。是非、お越し下さい。

【訪問日時】 第1回 2018年5月19日（土） 14:00～16:15

第2回 2018年6月9日（土） 14:00～16:15

【集合】 事前申込みのうえマギーズ東京に直接お越しください 13:50集合

★マギーズ東京 〒135-0061 東京都江東区豊洲 6-4-18

ホームページ <http://maggiestokyo.org/> Facebook <https://www.facebook.com/maggiestokyo>

【アクセス】交通 ゆりかもめ「市場前」駅下車徒歩3分

【定員】 各回 30名(先着順です)

【参加費】 1,000円(現地徴収) チャリティとして全額をマギーズ東京に寄付します。

【申し込み方法】 氏名(ふりがな)、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入し、
「マギーズ東京訪問第〇回 希望」と記載のうえ、次の方法でお申込みください。

【フォーマットによる申し込み】 <https://goo.gl/forms/i4QRtVkSmtlBt4192>

【FAXによる申し込み】 050-3737-2636 後藤哲男 宛て

(いただいた個人情報は、名簿化して訪問先に提出するほか、本訪問に必要な連絡に使用します。それ以外の目的に使用することはありません。)

◇ベグライテン憲法カフェ@四ツ谷のご案内◇

米朝、米韓首脳会談に向けて、中朝、日中韓首脳会談などが行われ、朝鮮半島非核化、南北共存に向けて、北東アジア情勢は急速に動いています。米国と北朝鮮の思惑には、まだ大きな違いがあるので、楽観は許されませんが、完全非核化までは最大限の圧力を、とばかり主張する日本の安倍政権は、完全に取り残されてしまっています。

ベグライテンは、これまで核兵器禁止条約の承認と批准を求める被爆者国際署名と、「安倍改憲 NO! 憲法を活かす全国統一署名」に取り組んできましたが、今こその署名運動を一段と強化する時なのではないでしょうか？署名を集めていると、いろいろ異なった考え方をしている人たちに出会います。たとえば改憲派のチラシ「自衛隊、ありがとう」に賛同している人たちも多い。これに対して「自衛隊は違憲よ」、「9条改憲反対！」では賛同が得られない。「そうね、災害救助などで頑張ってくれているよね」といったん同じ土俵に乗り、ひと呼吸入れてから、あなたの言葉、言い方で、話し込んだ方がよいのではないのでしょうか。

また、現実に軍隊といえる自衛隊が存続している以上、何らかの9条改憲は必要ではないか、とリベラル側からも「改憲論」が出ています。こうした考え方に対して、どう答えたらよいのかをテーマに議論します。もともと初心者向けの勉強会で、みなさま活発にご質問、ご意見を発表されるので、なかなか予定通り進行しないのですが、それが良いところだと考えています。ご家族、友人、知人を誘ってご参加ください。

◇ベグライテン 憲法カフェ第2期 第15回◇

【日時】 2018/5/17(木) 18:30—21:00 【場所】 東京法律事務所 1階会議室

【アクセス】 JR 四谷駅・四谷口前(しんみち通り入口横のファミリーマートの隣)

Tel: 03-3355-0611

<http://www.tokyolaw.gr.jp/about/location.html>

【提唱者】 岸松江弁護士(東京法律事務所) 【司会】 関根和彦さん(ベグライテン世話人)

【参加費】 1人500円+印刷代(100円程度) (参加費は提題者への謝礼となります)

飲み物は各自持参してください。

【テーマ】 署名活動の中で出てくる疑問や意見にどう答えるのか

【連絡/問合せ先】 大塩: veu03273@nifty.ne.jp 関根: 090-9146-6667

◆◆◆2018年開催の3～4月の講演会・セミナーの報告・感想◆◆◆

◆ICAN ノーベル平和賞受賞記念 川崎哲講演会◆

◆核兵器禁止条約で変わる世界～日本はどうする～◆

【日時】2018年3月24日(土) 17:30～20:00 (17:00 開場)

【場所】カトリック麹町聖イグナチオ教会 ヨゼフホール

【講師】川崎 哲 さん (ICAN 国際運営委員、ピースボート共同代表)

【講師プロフィール】かわさき・あきら 1968年東京生まれ。1993年東京大学法学部卒業。障害者介助の傍ら、市民グループで平和活動や外国人労働者・ホームレスの人権活動に従事。現在、ピースボート共同代表。核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員。

【主な著作】『核拡散 軍縮の風は起こせるか』岩波新書 2003(日本平和学会第1回平和研究奨励賞を受賞)

『核兵器を禁止する』岩波ブックレット 2014 他多数

雑誌『世界』(岩波書店)をはじめ国内外のメディアに寄稿多数。

【参加費】 自由献金制 どなたでも参加できます。

【主催】カトリック麹町教会メルキゼデクの会 FB <https://ja-jp.facebook.com/Melkizedeku.Official/>

ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest>

【協力】人権の翼 HP <http://wohr.jp/> きらきら星ネット HP <http://kirakira.jeip.net/>

つくろい東京ファンド HP <http://tsukuroi.tokyou>

ノーベル平和賞受賞を一過性のお祭りとして終わらせるのではなく、核兵器禁止条約を多くの国々が署名・批准し、同条約を早期に発効させる運動を加速させたいという川崎さんの思いを共有した講演会。被爆国日本の政府が、いまだこの条約にそっぽを向き、国民的な議論も起きていない事態は嘆かわしいことです。どうすれば、核兵器禁止条約をめぐる議論を深め、機運を高めていけるのか？この講演会を機に皆で考えていきたいですね。アンケートからのご感想をアップさせていただきます。

★本日は大変熱意ある分かりやすい講演を聞かせていただき、ありがとうございました。母が広島で被爆しました。広島出身でもあり、被爆二世として、核廃棄・核兵器禁止は人生におけるミッションと感じ、参加させていただきました。川崎先生のエネルギーでパワフルな姿勢に、力と勇気をいただきましたので、可能な限り今後も応援させていただきます。

★ベアトリス事務局長のお話も代々木に聞きに行きました。その時のお話を思い出しながら、川崎さんの最新の情報や、より実践的な取り組みや具体例を伺いながら、自分にできることから少しずつ取り組んでいきたいと思いました。寺尾彩子さんより

★すばらしい講演と企画で大いに勇気づけられました。市民として行動することができる具体的なお薦めも良かったと思います。松本 健さんより

◆ベグライテン4月公共例会のご報告◆

◆生きとし生けるものの生きられる世界を求めて◆

—「地球環境問題」が突きつけてきた世界市民としてのデモクラシー

前号で告知した憲法学者の石川健治先生に替わり、ベグライテン4月例会は、瀧章次先生から「地球環境問題」が突きつけてきた世界市民としてのデモクラシーを考える機会を頂きました。

1990年代からの地球大に広がるさまざまなリスクに対して、市民は、国民国家の枠を超えて世界市民として、連帯をはかり、問題の解決に向けて前進できているのか。それともパリ協定後の現代、分断の流れに屈しているのか。「地球環境問題」を社会的に再構成することを通じて、今求められる市民としての生き方を考えるとき、現代日本における政治や教育の現実にどのように向き合い、どのように行動して行けばよいか、一市民としてともに学びあう時をもてたことを感謝致します。

【講師】瀧 章次 先生(城西国際大学環境社会学部 教授)

【日時】4月14日(土)14:00~16:30 (懇親会 17:00~18:30)

【場所】ニコラ・パレ修道院 9F ホール カトリック 幼きイエス会 (ニコラ・パレ) 日本管区本部

【参加費】自由献金制 (できるだけ、1,000円程度の寄付をお願いします。)

【主催】ベグライテン HP: <http://begleiten.org/> FB: <https://ja-jp.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB: <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学 哲学

【参加費】自由献金制

◆◆ベグライテン セミナー (第1回) のご報告◆◆

◆ケアの哲学入門講座 2018 ケアの人間学 ~いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ~(第1回)◆

セルフケアをケアするというハビトゥスについて

第一回目は、ケアが人間のいのちの条件であることの意味を確認した上で、ケアがケアとして成り立つために必要なものは何であるか、具体例に即して、いくつかの提言を行います。弱さや傷つきやすさが互いの交流の場となる不思議や、自己と他者が幾重にも絡み合いながらお互いを触媒とすることによってケアする主体とケアされる主体が立ち上がっていくことへの驚きについて分かち合いたいと思います。キーワードは「セルフケアのケア」「中動態」「ハビトゥス」の3つです。

(参考文献: 丹木博一『いのちの生成とケアリング——ケアのケアを考える』ナカニシヤ出版。

なお当日は資料を配布する予定です。)

【講師】丹木博一さん(上智大学短期大学部英語科教授) 【日時】3月18日(日)14:00~16:30

【場所】上智大学 四谷キャンパス 2号館 4F 404 教室 102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

【参加費】1,000円(学生/障害・生保のある人 500円) どなたでも、参加できます。

【主催】ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> <http://begleiten.org/>

ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学 哲学科

★学生時代の先輩が難病にかかれたことでことをFBで知り、今回の内容に興味を持ちました。何かできるかも、何ができるか、と知識やケアについての不足への不安、を持ち、立ち止まっております。中動態のキーワードは大きなヒントになるように感じます。ありがとうございました。桑原 由比子さん

★「中動態」という姿勢についてのお話がとても面白かったです。日本語には「そう思われる」「感じられる」と言う言い方がありますが、その感覚に近いかなと思いました。人を操作して何かをさせたとき、心の交流が生まれるのは難しいはずです。

西川勝さんの著書も紹介して下さいありがとうございます。とても感動的な記述でした。助けないのだけでも、その場に一緒にいるということ。教育現場で働いてる私にとっても大切なことです。YIさん

★「中動態」という捉え方ができることが新鮮でした。学ぶと言う行為は、自分が変わることなので、中動態になるのか、あるいはスキルの学びは能動態になるのか、或いは他者理解は中動態になるのかといったことを考えています。

★とても興味深く拝聴しました。面白かったです。ケアするということが具体的にどういうことをするのか立体的になって立ち上がってきたような思いです。現実、両親の看病、介護に直面しているので、やけに説得力がありました。「中動態」という考え方、興味深かったです。動詞で言うと、英語なら他動詞と自動詞とも思いましたが、きっとそんな単純な振り分けではないのでしょうか、本を読んでみようと思いました。主語と言うと日本語は主語が目立たない言葉でもあるので、(主語がなくても通じる)そこにおけるケアについて考えてみようと思いました。 AI さん

◆◆ 3月～4月開催の憲法カフェの報告と感想◆◆

◆ベグライテン 憲法カフェ第2期 第13回◆

【日時】2018/3/15 (木) 18:30—21:00 【場所】東京法律事務所 1階会議室

【テーマ】署名活動の中で出てくる疑問や意見にどう答えるのか。

◆ベグライテン 憲法カフェ第2期 第14回◆

【日時】2018/4/26 (木) 18:30—21:00 【場所】東京法律事務所 1階会議室

【テーマ】署名活動の中で出てくる疑問や意見にどう答えるのか

ベグライテンでは上記の日時・テーマで、憲法カフェを実施しました。両会ともに下記のメンバーがファシリテートしてくださいました。

【提唱者】岸松江弁護士(東京法律事務所)・森正樹さん(ベグライテン世話人)

【司会】関根和彦さん(ベグライテン世話人)【参加費】1人500円+印刷代(100円程度)

◆憲法カフェ 第13回のご報告 参加者の平石泰基さんのML投稿より転載◆

当日は、3000万人署名活動の中で寄せられた質問について、どのような考え方をするのかについて話し合う予定でしたが、森友文書の書き替え(改竄 or 捏造)問題、北朝鮮問題この問題についての意見交換になりました。当日の意見を要約して紹介します。紙幅の関係上、複数の方の意見を一つの項目に纏めたり、割愛している部分がありますが、ご容赦下さい。(平石 泰基)

○ 森友関係決裁文書の書き替えについて

提題者の森さんが問題点を整理した資料を作って下さり、これに基づいて議論しました。

- ・安倍首相の「私や妻が関わっていたら……」という答弁は、国民に向けて言ったのではなく官僚達に向けて言った言葉とみてよい。とはいっても、忖度だけで公務員が犯罪になることをやらない。それを敢えてやったのは、政権が守りきってくれるという“安心感”があったのだろう。
- ・問題の所在は、①誰の指示で改竄されたのか、②なぜ破格の値段で売却されたのか、この2点について首相、首相夫人の関与があったのかどうかということ。また、昭恵夫人が教育勅語など森友学園の教育方針

に共感している姿勢を示しているのは、日本会議の目的と一連の運動に沿った動きとなっていることに着目する必要がある。

- 政権が無傷で幕引きするには、①佐川氏が一存でやったこととして全部自分で被る、②刑事訴追を理由に黙秘する、の二つが考えられる。証人喚問はむしろ谷氏を呼ぶべきだろう。本当のことは第三者委員会で調査しなければ分からないのではないか。
- 最近の普通の人達は、安倍首相の言動に信頼感を持っている。安倍首相は、追い込まれると新しい目玉をもって来るなどして人気回復を図ってきたが、いままでメディアが報じなかった市民の動きを最近では報じられるようになったなど変化が見えている。今後の国会の進捗により、安倍首相に同調的だった人達も変わってくるのではないか。
- これで安倍政権が飛ぶと憲法問題も頓挫するという意見があるが、森友問題で安倍内閣が失脚しても、憲法改正は並行して進められていくのではないか。

○北朝鮮問題

- 北朝鮮がミサイルを持った時点で力のバランスが変わってきた。制裁の成果と言えるかもしれないかも知れないが、これを続けたら戦争しか道がなくなるので、米朝双方が方針を変えてきたのではないか。それにも関わらず安倍首相は、韓国の融和方針に異議を唱え文大統領から内政干渉と非難されている。
- 北朝鮮は、核放棄を交渉の出口として見ているが、米国は、「北朝鮮が核を放棄しなければ交渉に応じない」と言っていたように核放棄を交渉の入口として見ている。米朝会談の成り行きを楽観的にみることはできない。
- 北朝鮮は既に日本への（核を含めた）攻撃態勢を整えているという話がある一方で、米朝戦争があっても米国に損害が殆どないという損害試算がでてくるなど、米国による先制攻撃がないとは言えない。そうなれば、日本の米軍基地から攻撃機はでていく。日本の安全をどうしたら確保できるか、ということを実際に考えなければならない
- 北朝鮮は現体制を維持することができれば、核を保有することには拘らないと述べている。近隣諸国を巻き込んで北朝鮮の体制を保障することで、北朝鮮に核を放棄させる必要がある。そのためにも、安倍に火に油を注ぐようなことをさせない事が必要。

次回の憲法カフェ：4月26日（木）18：30からです。（平石 泰基さんより）

◆第3回（4月29日）「憲法カフェ」せたがや概要◆

（ベグライテン憲法カフェで提唱者として活躍されている森正樹さんが、三軒茶屋でも開催されている憲法カフェでの感想を寄稿して下さったので下記、掲載します。）

本日初めての参加の2名を迎え7名参加。前回（3月22日）から国会動向や国際情勢が大きく変化した。これらの問題を中心に討論した。

「森友公文書改ざん問題」、「国有地不当格安払下げ問題」は、だれが、なぜ、何を目的に行ったのか。これらが解明されない限りこの問題は終わらない。この国の民主主義が問われるからだ。

佐川前理財局長の証人喚問が27日に行われたが、ほとんど真実を語らなかった。「首相の関与は一切ない」とかばえばかばうほど関与の疑惑が深まった。

こんな矢先、こんどは福田淳一財務省事務次官のセクハラ問題が浮上り辞任に発展。麻生財務大臣が擁護したこと、福田氏はセクハラを否定していることなど、今後、国会で真相解明が求められる。

これらの問題の解明には、野党6党が求めている「4つの要求」に政府側が真摯に答えることが先決。安倍首相自身「うみを徹底的に解明」と言いつつ、逃げています。

その要求とは、①麻生財務相の辞任、②柳瀬唯夫元首相秘書官の証人喚問、③財務省による文書改ざんの調査結果を4月中に公表し、改ざん前の原本全文を即時に公開すること、④自衛隊「日報」問題の真相、自衛官の国会議員に対する暴言問題の早期の事実確認を強く求める。

この1年間、行政府は立法府をだましてきたことになり、その中で行われた昨年の衆議院選挙の有効性も疑わしく「立憲主義」が壊された。行政府の長としての首相の責任はきわめて重い。首相は「うみを出し切る」などと、ひとごとのような発言を繰り返している。「うみ」の源は首相自身のはず。国民にも広く知れ渡りつつある。

北朝鮮問題では、南北首脳会談、米朝首脳会談への下準備が進み、朝鮮戦争の平和的終結、朝鮮半島「非核化」への道が開かれようとしてきた。この期に及んでも安倍首相、日本政府は、「圧力一辺倒」の方針を維持し、世界の大勢から取り残される状況にある。

京都府知事選は残念だった。「立憲民主」が前原（民進党）の影響もあって自公方に着いたが、支持者の半分は福井氏に投票したといわれている。

新潟の米山知事も変なことでやめることになった。ここでは共産、自由、社民の共闘で勝利し、民進は加わらなかった。原発再稼働反対を唱えた米山知事を継承する候補の当選を願う。

野党6党による『立憲主義回復』『行政府健全化』臨時政府を提案したい。

討論中、3千万署名に取り組んでいる仲間二人が警官に連行されるとメールが入った。世間の目が国会に集中している空白を狙って、都民の多くが知らないうちに「都迷惑防止条例」が可決された。小池都知事と安倍首相は連携しているのでは。この条例の危険な点は、「共謀罪」と同様に立法事実がないまま、警官の判断で迷惑行為と判断されると逮捕されてしまう。国会前の集会やデモ、労働組合の活動に適用される恐れがある。

今回のテーマである「護憲的改憲案」とは、自衛隊を個別的自衛権のみ行使しうる戦力として「専守防衛」に徹し、「集団的自衛権」は行使できないとする、安倍政権以前の状態に戻す方向での「護憲的改憲」案が現実的では（伊勢崎賢治氏ほか案）、との案に対してどう対処すればよいか。

世論調査で、「何らかの改正は必要」が多数を占めている。自衛隊の存在をどう評価するか、9条との関係など若者ほど改憲賛成が多い。この実情をどう考えるか。自衛隊をアメリカの引き起こす戦争に巻き込まれる危険性が高まる安倍改憲には反対、での結集が必要。

次回（5/29）は、南北朝鮮問題の進展とこの問題をテーマとしたい。（森 正樹さんより）

★★ その他のカレンダー★★

◇2018年夏期コース「認知症を考える」のご案内◇

こまば当事者カレッジは、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」（UTCP）・上廣共生哲学寄付研究部門（「障害と共生」プロジェクト）の主催によるものです。本カレッジは、様々な障害をもつ当事者、当事者の家族、支援者、専門職、研究者、学生などが共に学ぶ場を提供することを目的としています。各期にテーマを設

定したコースを開講し、各コースでは、障害に関して様々な視点から研究や活動を行っている方を講師としてお迎えします。

当カレッジでは2018年夏期コース「認知症を考える」を5月より開催いたします。

本コースのプレイベントとして行われたシンポジウムで、参加者からシンポジストに対して様々な質問が寄せられました。そのなかに、次のような趣旨の質問がありました。ご自身が認知症になったらどのように生きていきたいですか？シンポジストの1人は次のように応答しました。この問い自体が、認知症になったら生き方を変えなければならないということを前提にしているのではないのでしょうか？

認知症と診断されてもそれまでの本人の歴史を尊重し、未来への希望を叶えるために、当事者、専門家や支援者、家族、一般の人々はどうすればいいのでしょうか？本コースでは、そうした社会の実現に向けて積極的に発言されている専門家と当事者の方々を講師としてお招きし、共に学び、考えていくことを目的としています。

本コースは、全6回（予定）のレクチャー&ワークによって構成されています。各回のレクチャー&ワークは、講師によるレクチャー部分の前半と、レクチャーを受けて、講師と参加者の皆さんで議論していただくワーク部分の後半に分かれます。ワークでは、各回のテーマについて、小グループに分かれてディスカッションなどを行う予定です。全6回のレクチャーとワークを通じて、認知症の当事者にとって生きやすい社会とはどのようなものなのかを考えていきたいと思えます。

【コース日程（予定）】 ※いずれも13時～17時を予定 【会場】 東京大学駒場Iキャンパス内

【レクチャー&ワーク テーマ・講師】（※各テーマは暫定的なもので変更の可能性があります。）

5月12日（土）「認知症って何ですか？」樋口直美（レビー小体病当事者）

山口泰弘（東京大学医学部附属病院老年病科 講師）

6月24日（日）「ユマニチュード：ケアの技法」本田美和子（国立病院機構東京医療センター）

7月14日（土）「認知症の人類学」北中淳子（慶應義塾大学）、小林孝彰（認知症ケア町田ネット世話人）

7月21日（土）「介護現場からの問い」金山峰之（ユアハウス弥生）、堀田聰子（慶應義塾大学）

8月4日（土）クロージングワークショップ

※他に上野秀樹さん（千葉大学）を講師として予定していますが、日程は未定です。

日程が決まり次第ご案内します。

- ・各レクチャー&ワークごとに参加者を募集します。（募集開始時期は未定です。ご希望の方には、募集開始時にご連絡しますので、件名を「2018夏期コース案内希望」として、下記お問合せ先にメールをお送りください。）
- ・各レクチャー&ワークの定員は100名を予定しています。
- ・本コースは学びの場を提供するものであり、本コースに参加しても何らかの資格や権利が得られるものではありません。
- ・本コースの参加費は無料です。（懇親会や昼食会などを行う場合には、会費を頂戴いたします。また、テキストなどを使用する場合には、原則として各自でご用意していただくことになります。）
- ・コースの様子をウェブや報告書、論文等での活動報告のため撮影・録画・録音させていただきますので、ご了承の上ご参加ください。撮影・録画・録音した記録を直接研究に使用する場合には、改めてご本人の承諾を得たうえで使用させていただきます。

・アンケートの結果やワークでの議論の内容をホームページや報告書・論文などでご紹介させていただく場合があります。

【問合せ先】 こまば当事者カレッジ tojisha-college @utcp.c.u-tokyo.ac.jp

◇院内集会 自民党改憲案の問題点と危険性 ◇

【日時】 5/15(火) 18:00～19:30 閉会☆17時30分から衆議院第2議員会館1階で通行証を配付します。

会場は定員125名です。先着順に通行証をお配りしますのでご了承ください。

【場所】 衆議院第2議員会館 地下1階 第1会議室

【プログラム】 報告 「自民党改憲案の問題点と危険性」

1. 9条改憲 東京慈恵会医科大学 教授 小沢隆一氏
2. 26条改憲(教育) 日本体育大学 教授 清水雅彦氏
3. 合区解消 東海大学 教授 永山茂樹氏
4. 緊急事態条項 名古屋学院大学 教授 飯島滋明氏

連帯挨拶 各国会議員より

本年3月25日、自民党は党大会を開き、党の憲法改正推進本部がまとめた条文案(「たたき台素案」)に基づいて①自衛隊の憲法9条への明記、②緊急事態条項、③参議院の合区解消、④教育の充実の追加の4つの項目で憲法改正を進めていくことを確認しました。自民党改憲案の基本的な方向性は、いずれも、改憲の必要性・合理性を欠くうえに、日本国憲法の平和主義、国民主権、議会制民主主義、基本的人権の尊重などの基本原理を変質させ、破壊する危険性の強いものといえます。

これらの問題点と危険性を指摘して主権者である国民に知らせることは、法律家としての使命であると考え、以下のとおり、院内集会を企画しました。

なお、本集会では、「安倍改憲NO!全国市民アクション」と共同で当連絡会が作成したブックレット「自民党改憲案の危険性」(仮)の出版披露も行う予定です。ぜひご参加ください。

【主催】 改憲問題対策法律家6団体連絡会 安倍改憲NO!全国市民アクションほか

【問い合わせ】 TEL: 03-5367-5430 日本民主法律家協会

◇『白金猿(はっきんさる)』出版記念シンポジウム～ポスト安倍政権の対抗軸◇

『白金猿ーポスト安倍政権の対抗軸』(白井聡・金平茂紀・猿田佐世)の出版を記念したシンポジウムが開催されます。森友文書改ざん、米朝会談、改憲問題など、情勢の変動により著書の内容が検証され、「ポスト安倍政権の対抗軸」が現実的に問われる段階で、著書に収録した3回の鼎談に次ぐ「白金猿鼎談」を予定しています。

【日時】 2018/05/17 Thu.18:00 開場 18:30～20:30

【会場】 IKE.Biz としま産業振興プラザ6F「多目的ホール」豊島区西池袋2-37-4 Tel: 03-3980-3131
地図 最寄り駅「池袋駅」南口徒歩7分、西口10分

【参加費】 1000円(ND会員は無料) ※シンクタンク「新外交イニシアティブ(ND)」は、
特定の個人・団体・企業等から独立した特定非営利活動法人です。

【登壇者とテーマ】 鼎談: 国家のあり方と国民の意識改革を問う

金平茂紀(ジャーナリスト、TBS「報道特集」キャスター) 国会論戦から見た安倍政権の特質

白井聡（京都精華大学人文学部専任講師、政治学者）明治 150 年と近代国家形成の歴史と現在
猿田佐世（新外交イニシアティブ(ND)事務局長、弁護士）米朝対談など外交から見た安倍政権
※終了後、『白金猿ーポスト安倍政権の対抗軸』のサインセールも行います。

著者：白井聡／金平茂紀／猿田佐世 四六判、256 頁、本体 1700 円＋税

【主催】かもがわ出版 【後援】新外交イニシアティブ (ND) 【協力】平和の棚の会

【お申込み】 氏名、住所、電話番号を明記の上、下記までご連絡をお願いします。

E-mail : mousikomi@kamogawa.co.jp Fax : 075-417-2114

◇東京藝術大学《芸術と憲法を考える連続講座》◇

国会の衆参両院で改憲勢力が3分の2以上を占め、本来であれば憲法に縛られるべき存在の政権が、改憲に向かい前のめりに進み始めている今、国民投票が発議されるのではないかとの危惧が、いよいよ現実味を帯びています。そこで藝大有志の会では、このたび《芸術と憲法を考える連続講座》をスタートし、地道な学習会を重ねていく運びとなりました。ちょっと大変かもですが、本気モードの月1回ペースで、多彩なアーティストや言論人、第一線の研究者などにご登壇いただく計画です。

【主催】東京藝術大学音楽学部楽理科 【共催】自由と平和のための東京藝術大学有志の 【後援】日本ペンクラブ

【会場】東京藝術大学上野キャンパス 音楽学部 5号館 1階 109 教室 (台東区上野公園 12-8)

【参加費】無料・事前予約不要 どなたでもご参加頂けます。

【日程とテーマ・講師】

5/19(土) 14:00 - 16:30 「作文・美術教育が罪とされた時代」 佐竹直子さん (北海道新聞社)

「生活をありのままに描いてごらん」と国語や美術の授業で子ども達に指導した教師たちや、その影響を受け師範学校 (いまの教員養成系大学) で活動した美術部の学生たちが、治安維持法違反容疑で大量検挙され、極寒の牢獄につながれた北海道綴方教育連盟事件と生活凶画事件。治安維持法の再来ともいわれる特定秘密保護法・共謀罪法が成立し、政府・与党主導で9条改憲までが叫ばれている今、私たちは歴史から何を学ぶのか？

治安維持法下の日本で、多くの若い国語教師、美術教師、美術部の学生らが逮捕された、北海道綴方教育連盟事件、生活凶画事件とは？ 治安維持法の再来ともいわれる特定秘密保護法・共謀罪法が成立し、政府・与党主導の憲法改正までが叫ばれる今、私たちは歴史から何を学ぶのか？

月1のペースで開催中の《芸術と憲法を考える連続講座》。5月 (...第6回) は、北海道新聞記者・佐竹直子さんを招き、日本ジャーナリスト会議賞 (JCJ 賞) 受賞の書『獄中メモは問う 作文教育が罪にされた時代』取材にまつわる貴重なお話を聞く。

6/22(金) 18:30～ 「へいわってすてきだね 沖縄慰霊の日 (6/23) 前夜に送る絵本ライブ」

長谷川義史さん (絵本作家)

7/24(火) 18:30～ 「ナチスの手口」と芸術

石田勇治さん (東京大学教授)

8/20(月) 15:00～ 「イメージする。表現する。行動する。一核兵器のない世界へ」

川崎哲さん (ICAN 国際運営委員・NGO ピースボート共同代表)

岡村幸宣さん (丸木美術館学芸員)

◇東京いのちの電話多摩 2018年度公開講演会 ◇

変化の激しい現代社会、困ったり不安になったとき、誰にも相談できず悩んでいる人が数多くいます。また、苦しみ、自殺に追い込まれる人も大勢います。

このような人たちが、電話で話すことにより、再び生きる勇気を見出していかれるよう、よき隣人であることを願いながら「いのちの電話」は世界中のいたるところで活動しています。

「東京多摩いのちの電話」は、日本における「いのちの電話」のひとつとして、1985年6月に開局し、無償のボランティア相談員が年中無休で、今までに45万件余の無料の電話相談を受け、弁護士による法律相談も受け続けております。

開局の一年後に「日本いのちの電話連盟」に加盟し、2001年から厚生労働省補助事業「自殺予防いのちの電話」に参加し、毎月10日に24時間体制で相談活動をしています。

【日時】 5月20日（日）14:00～16:00

【会場】 八王子市南大沢文化会館ホール *講演会終了後、相談員募集についての説明をいたします。

【講師】 松本俊彦氏（精神科医） 【定員】 先着300名

【申込】 電話・Fax・Web で *事前の申込みが必要です。

【問合せ】 東京多摩いのちの電話 ☎042-328-4441 （月～金）10:00～17:00

*お申し込み後、指定の振込先へ参加費（お一人につき千円）を入金、入金確認後、入場券が送付されます。

◇コミュニティカフェ「スペースナナ」講座◇

地域でゆるやかに支えあう場を作ろう —生き心地のよい新しいコミュニティのつくり方

年齢、性別、国籍、障害のあるなしにかかわらず、誰もが安心して立ち寄り、元気になれる場を地域で作りたいと、をオープンして7年半の月日が経ちました。多様な人たちがゆるやかに支えあえるような地域づくりをめざして連続講座を毎年開き、2015年2月からは誰もが参加できるナナ食堂を月2回開いています。

今年度は、地域でさまざまなかたちで<生き心地のよい新しいコミュニティづくり>に向けて様々な試みをしている方たちをお呼びして8回の講座と1回の映画会を企画しました。

お話の後、ゲストを交えて参加者同士の交流の時間をとり、場づくりを始めた方、始めたい方たちの情報や知恵の交換の場となることを願っています。

【日程とタイトル・ゲスト】

◆第1回5/26（土）学校・家庭・地域をつなぐソーシャルワーカー

◆ゲスト：スクールソーシャルワーカー 土屋佳子さん

2008年から、学校では、心理面からのアプローチをするスクールカウンセラーとは別に、子どもを取り巻く環境に働きかける社会福祉的アプローチをするスクールソーシャルワーカーの配置がはじまりました。まだ人員も足りず、あまりなじみのない存在ですが、これからますますその重要性が高まってくるであろう、学校と家庭と地域をつないで問題を解決していくその仕事から見えてきた、子どもや家庭、学校の現況、学校と地域の連携などのこれからの課題について、スクールソーシャルワーカーの土屋佳子さんにお聞きします。

◆第2回 6/17(日) 学校を開いて地域につなぐ「ぴっかりカフェ」

◆ゲスト：神奈川県立田奈高校図書館司書 松田ユリ子さん

在校生・卒業生の居場所として2014年12月に週一回図書館を開放してオープンした神奈川県立田奈高校のぴっかりカフェ。学校を地域に開いて、地域の人たちも巻き込んだこの試みの仕掛人でもあり、長年、学校図書館を風通しの良いワクワクするような多様な学びの場にしようと実践を重ねてきた司書の松田ユリ子さんに、学校を地域に開いてゆくためのしかけや、誰にでも開かれ、自由な発想や多様なコラボレーションが生まれる場をつくる秘訣をお聞きして、場づくりのヒントにしたいと思います。

◆第3回 7/7(土) 共に生きることで悲しみをく生きる力>に

◆ゲスト：ミシュカの森主宰 入江杏(いりえ・あん)さん

2000年年末に起きた世田谷の一家殺人事件で妹さん一家を亡くされた入江さんは、希死念慮に憑りつかれるほどの悲しみののちに、犯罪被害からの回復、自助とグリーンケアに取り組み、絵本『ずっとつながってるよ こぐまのミシュカのおはなし』の創作と読み聞かせ活動を行い、震災後は被災地での読み聞かせ、自殺や難病などの問題にも活動の領域を広げ、当事者の声を社会につなげようとされています。喪失体験をした人が悲しいときは泣き、うれしいときは遠慮なく笑えて、思いを発信できる社会にしたいし、それを受け入れられる社会にしたいと活動を続ける入江さんに、地域で悲しみを支えあうにはどうしたらいいか、お話を伺いたいと思います。

◇真生会館 土曜日講座「この国のかたちを考える」講座◇

～生きる喜びを見出すために～

【場所】真生会館 〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

【アクセス】JR 総武線信濃町駅改札を出て右側徒歩1分

【お申込み・お問い合わせ】一般財団法人真生会館→ <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

電話 03-3351-7121 (受付代表・受付時間 10:00-16:45) ファックス 03-3358-9700

E-mail: gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp

【日時と講師・テーマ】土曜日のいずれも時間は13:30～15:30です。

*5月26日 太田勝(福音の小さい兄弟会)

私の人生での出会い

(寄せ場・被差別部落・熊野・野宿者・原発被災者との出会いで見えて来た“この国のかたち”)

*6月2日 稲葉剛(一般社団法人つくろい東京ファンド 代表理事・立教大学大学院特任准教授)

貧困の現場から社会を変える

*6月16日 藤田孝典(NPO法人ほっとプラス代表理事・聖学院大学客員准教授)

高齢者の貧困と下流老人問題

*6月30日 石井光太(ノンフィクション作家・小説家・作家)

現代の社会、家族の闇の中に光を求めて

*7月14日 結城康博(淑徳大学教授) だれもが安心して暮らせる社会とは

◇美ら海壊すな 土砂で埋めるな 国会包囲行動◇

【日時】2018年5月26日(土) 14:00~15:30 【場所】国会議事堂周辺

【主催】止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会 <http://humanchain.tobiio.jp/>

◇望月衣塑子記者×金平茂紀キャスター講演会(東京・目黒)◇

「なぜ隠すのか！問われるメディアの力！モノが言えない空気を引き裂く！」をテーマに望月衣塑子さん(東京新聞 社会部記者)と金平茂紀さん(ジャーナリスト・キャスター)の対談を行います。

【日時】2018年5月27日(日) 午後1時半~4時 【定員】417人

【場所】目黒区民センター(大ホール) (JR山手線・東急目黒線 目黒駅から徒歩10分)

【参加費】500円 ※学生・手帳ありの方：無料

【主催】「戦争はごめんだ、いのちを守るオールめぐろの会」 (略称：オールめぐろの会)

https://allmeguro.files.wordpress.com/2018/04/mochiduki_kanehira_talk_2018flyer1.pdf

◇2018年度前期 東京大学大学院人文社会系研究科

臨床死生学・倫理学会◇

臨床死生学および臨床倫理学の諸課題に関して、医療と介護の現場の実践家や、医学・看護学・保健学・哲学・倫理学・社会学・教育学などのさまざまな分野で取り組んでいる研究者らからご講演いただき、全員でディスカッションします。どうぞお気軽にご参加ください。

【開催日】水曜 (不定期) 【時間】午後6時50分~8時30分

※開始時間がこれまでより5分遅くなり、6時50分になりました。恐れ入りますが、スタッフからご案内があるまでは教室の外でお待ちくださいますようお願い申し上げます。

【会場】本郷キャンパス 法文2号館 2階 1番大教室

【主催】東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター

- *5月30日(水) 認知症高齢者におけるフレイルの評価と意義
杉本 大貴 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター研究員
神戸大学大学院保健学研究科 日本学術振興会特別研究員
- *6月20日(水) 医療崩壊の夕張から学ぶ、市民の意識改革
森田 洋之 南日本ヘルスリサーチラボ 代表/鹿児島県参与
- *7月11日(水) 治癒に寄与する「倫理」 -オープンダイアログの可能性-
斎藤 環 筑波大学医学医療系 社会精神保健学 教授

◇生と死を考える会遺族支援スタッフ養成研修のお知らせ◇

NPO法人「生と死を考える会 生と死を考える会」は大切な人と死別した遺族の支援・自助活動や死生観の探索に、35年の長い期間携わってきおります。

この度、これまで培ってきた実績をもとに遺族支援スタッフ養成研修会を実施致します。

研修会では、遺族支援活動における基本的な知識や傾聴技術態度などを理論と実践の両面より学びあいます。
募集要項をご覧の上、ご応募ください

【受講対象者】

- 病死や事故、自等により遺された族ちの支援ボランティア活動関心ある方
- 死別体験者でない方も、この分野活動に日頃より関心深可
- 研修了後、本会の支援ボランティア活動に参画することが出来ます

【研修日程】 2018年5月30日(水)～8月1日(水) 日(水) 全10回

1回2時間 計20時間 毎水曜日、午後6時30分～8時30分

- ・5月30日(水)・6月6日(水)・6月13日(水)・6月20日(水)・6月27日(水)
- ・7月4日(水)・7月11日(水)・7月18日(水)・7月25日(水)・8月1日(水)

【会場】 東京YWCA会館2F(214号室) 生と死を考える会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館2F214号

TEL 03-5577-3935 (火・金/午後) FAX 03-5577-3934

※案内図は東京YWCA会館ホームページの地図をご参照ください。

【講師】 磯邊 聡 千葉大学教育学部教授 臨床心理士

「生と死を考える会・分かち合いの会」スーパーバイザー 千葉犯罪被害者支援センター理事。
小山達也 東京女子医科大学看護学部講師、看護師。「生と死を考える会」理事。
田畑邦治 白百合女子大学長、生と死を考える会副理事長。
中里和弘 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員、生と死を考える会理事。
藤井忠幸 生と死を考える会代表理事、自死遺族ケア団体全国ネット代表

【参加費】 本会会員 20,000円 会員以外 25,000円

【定員】 12名程度(定員になり次第締め切らせていただきます)

【申込み】 申込用紙に所定事項を記入の上、本会まで郵便、ファックス、メールにてお申込みください。

NPO 法人 生と死を考える会 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA 会館214号室

電話：03-5577-3935 F a x : 03-5577-3934 E メール：kensyu@seitosi.org

ホームページ：<http://www.seitosi.org/index.html>

◇グリーンフサポートせたがや主催 講演録出版記念講演会◇

グリーンフを社会全体で支えるために大切なこと～イギリスで見えた情景より～

「ミシュカの森」としても、「世田谷区のグリーンフサポート検討委員」としても成長と活躍をと見守り続けている一般社団法人グリーンフサポートせたがや。2017年5月から11月まで3回にわたって開催した、グリーンフサポートせたがやの連続講座講演録「“いま”を生きる グリーンフとともに～喪失体験は過去形、哀しみは現在進行形～」の完成を記念して講演会を開催します。今回、「いつ、どこで、どのような形で大切な人を亡くしても、その人が必要とするサポートを確実に得られる社会の実現」を目指して活動をされているリヴオンの尾角光美さんをお招きして、死別を支える社会政策、境界を越えたグリーンフサポートについて考えたいと思います。ぜひご参加ください。

【日時】 2018年6月2日(土) 午後2時～4時(午後1時半開場)

【定員】 80名(当日参加可・満席の場合は事前申込者優先)

【会場】 せたがや がやがや館交流室(世田谷区池尻2-3-11 3F)

【参加費】1,500円☆講演録1冊つき！（介助者無料、手話通訳・ノートテイクあり）

【主催】一般社団法人グリーンサポートせたがや

【講師】尾角光美さん（一般社団法人リヴオン代表）

19歳で母を亡くした後、あしなが育英会で病気、災害、自殺、テロ等による遺児たちのケアに携わる。2006年自殺対策基本法制定以後、全国の自治体、学校などから講演、研修の講師として呼ばれ、自殺予防やグリーンケアに関して伝え広める。2009年「グリーンケアが当たり前にある社会」の実現を目指してリヴオンを立ち上げる。2016年8月より日本財団国際フェロー5期生として渡英し、社会政策の観点からグリーンサポートを比較研究。2018年1月ヨーク大学大学院修士課程卒業。国際比較社会政策学修士号取得。単著に『なくしたものとつながる生き方』（サンマーク出版）

共著『自殺をケアするということ』（ミネルヴァ出版）。

【お申し込み・お問い合わせ】 Email: griefsetagaya@yahoo.co.jp 電話 03-6453-4925 FAX: 03-6453-4926

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。

【講演録について】※図書紹介の欄で詳細をご紹介しますのでご参照を。

◇三上智恵・大矢英代 共同監督『沖縄スパイ戦史』公開記念トーク◇

【日時】6/3(日) 12:00～16:00（開場 11:30）【場所】LOFT9 Shibuya

【テーマ】「沖縄を再び犠牲にしないために」

【参加費】予約¥1200 / 当日¥1500 + 飲食代（¥500～）

※予約は以下の予約ボタンまたは電話 03-5784-1239（12:00～23:00）にて

【出演】井筒高雄（元陸自レンジャー隊員）三上智恵（映画監督／ジャーナリスト）

大矢英代（映画監督／ジャーナリスト）【進行】鈴木耕（編集者『マガジン9』）

【主催】新宿西口反戦意思表示・有志

◇ピースハウスホスピス見学会◇

ホスピスってどんなところ？日野原記念ピースハウス病院はがんの患者さんをケアする病院—ホスピスです。痛みなどの症状や、心のつらさを和らげる緩和ケアを専門に行っています。一度どんなところご覧になってみませんか？院内見学のあとは、医師や看護師などが当院のケアについてお話しします。

【日時】2018年6月7日（木）14:00-15:30 【対象】医療・福祉関係専門職

【参加費】無料 【場所】ピースハウスホスピス2階視聴覚室 足柄郡中井町井ノ口1000-1

【問い合わせ先】〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所「ホスピス緩和ケア講座」係

TEL: 0465-81-8904 FAX: 0465-81-5521

【主催】一般社団法人ライフプランニングセンター ピースホスピス教育研究所

お申込はお電話で！ 電話:0465-81-8904 受付時間 9:30～16:30

◇6.10 沖縄意見広告報告集会◇

【日時】2018年6月10日(日) 14:00～ 【場所】お茶の水全電通労働会館

【登壇者】稲嶺進（前名護市長）

「オール沖縄」共同代表) 辺野古現地報告 : 安次富浩 (名護・ヘリ基地反対協共同代表)
伊波洋一 (参議院議員)

◇尾木直樹先生を迎えて「いじめ問題の実態を知り理解を深めるための勉強会」◇

「ミシュカの森」が協力しているいじめ問題に特化する NPO 法人「ジェントルハート」が、
参議院会館内で、勉強会を開催します。おいでになれる方は、お気軽に入江まで
(ANA71805@nifty.com) ご連絡下さい。私が受付のお手伝いをしています。

【日時】 2018 年 6 月 12 日 (木) 14:00~16:00

【会場】 参議院議員会館 一階 101 会議室 (定員 108 名)

※事前申し込みが必要です。上記入江、或いは主催団体の小森さんでも構いません。
メールにてお申込みください。

【主催】 NPO 法人 ジェントルハートプロジェクト

【共催】 人権の翼 / NPO 法人 暮らしのグリーフサポートみなと / ミシュカの森 / かなちか基金

【問い合わせ先 電話&FAX】 045(845)3620 (小森) E-mail : komori-s@npo-ghp.or.jp

【当日のプログラム】 基調講演 尾木直樹先生

◇ピースハウスホスピス緩和ケア講座 2018◇

ピースハウスホスピス教育研究所では、6月19日(火)~9月26日(水)の期間に全6回で、緩和ケア講座を開催します。専門病棟だけでなく、一般病棟、在宅ケアの現場、また介護施設など様々な場で広く提供されるようになったホスピス緩和ケア。ケアの基本を学ぶ緩和ケア講座を今年度は下記の内容で企画しております。また、本講座の講義を全て受講された方で、希望者には、臨床実習の機会を提供いたします。皆さまのご参加をお待ちしています。

【日程】 6月19日(火)~9月26日(水) ※講座は1日ごとのお申し込みも可能です。

この会報では第一部の「がん患者のケア -症状マネジメントを学ぶ-」講座の一部ご紹介にとどめておりますので、全講座の関しましてはご自身で御照会ください。

【会場】 ホスピス教育研究所 日野原記念ピースハウス病院 2階

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 1000-1

【日時とテーマ・講師】 6月19日(火) 13:00-16:00

1) がんの痛みの理解とマネジメント 2) 痛みのある患者の看護の実際

日野原記念ピースハウス病院 医師岩崎 誠 / 同がん性疼痛看護認定看護師 石黒恵美・高次美香

【日時とテーマ・講師】 7月5日(木) 13:00-16:00

1) 消化器症状(嘔気・嘔吐)の理解とマネジメント 2) 食によせる思いを受けとめ支援する

日野原記念ピースハウス病院 医師 岩崎 誠・同管理栄養師 平野真澄・宇賀玲実

◇千葉いのちの電話 2018 年度ボランティア相談員募集事前説明会◇

【日時】 ■ 2018 年 6 月 24 日(日) 14:00~

千葉市鎌取コミュニティーセンター (定員 50 名)

講演「心かよう対話」 講師：岸 良範 茨城大学大学院教授

■2018年7月8日(日) 10:00～ きぼーる (定員 40名)

体験談「いのちの電話にかかわって」 田邊昭雄 東京情報大学教授 他相談員

【お問い合わせ/申込み】 社会福祉法人 千葉いのちの電話事務局 (月～金 9:00～17:00 祝日休)

TEL 043-222-4322 FAX 043-227-6911

メール ll-chiba@chiba-inochi.jp <<https://www.chiba-inochi.jp/events/>>

◇横浜チャイルドライン 子ども支援者養成講座 2018 募集中のお知らせ◇

「特定非営利法人横浜チャイルドライン」の受け手養成講座は、おとなが子どもとどう向き合えばいい
のか、をともに学びます。

【日程】 前期講座 7月7日(土)～9月1日(土) 全10回

※ 子ども支援に興味ある方はどなたでも受講できます。

※ 前期講座のみの受講もできます。

後期講座 10月13日(土)～12月1日(土) 全8回

※ チャイルドラインの受け手ボランティアを希望される場合は後期講座の受講も必要です。

※ 後期講座のみの受講はできません。

【定員】 50名 【費用】 前期2万円(全10回) / 後期1万円(全8回)

【申込み】 申し込みフォームよりお願いいたします(それ以外の申込みは下記をご覧ください)

申し込み締め切り 6月25日(月)

【会場】 横浜市青少年育成センター研修室 (横浜市中区住吉町2-22 松栄関内ビル7階)

<https://www.yokohama-childline.com/子ども支援者養成講座2018/講座内容と日程/>

お申込みは、お申込みフォーム・メール・お電話・FAX いずれでも受け付けます。

多くの方のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ】 電話：045-342-0255 (月・水・木 11時～19時) FAX：045-342-0288 (随時)

Eメール：2018YCL@gmail.com

以下5点をお知らせください。

1.養成講座を申し込みます 2.名前 3.TEL/FAX 4.住所 5.メールアドレス

*FAX、Eメールでお申込みの方へのお返事は、事務局開設日(月・水・木)に行います。

文書等送付先 〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11

「かるがも」3F 保土ヶ谷区社会福祉協議会内メールボックス内

※よこはまチャイルドライン事務局は原則住所非公開となっております。

こちらの住所はメールボックスのみの設置です。

※メールボックスNo.は不定期で変更されますので、記入なさらないようお願いいたします。

◇～沖縄問題を「本土」から考える～米軍機はなぜ落ち続ける◇

【日時】 2018年7月7日(土) 13:30～17:00 【場所】 明治学院大学白金キャンパス地下1階3号館3102教室

【プログラム】 第一部 講演 「主権なき国家のひずみ～沖縄問題を東京で考える～」

沖縄タイムス政治経済部 福元大輔

◇図書紹介◇

注目の図書を二冊ご紹介します。一冊目は、カレンダーの欄でも触れました「グリーフサポートせたがや」の講演録、とてもおしゃれな表紙デザインも魅力です。二冊目はフェリス女学院大学の島村 輝先生より御紹介頂いた先生の御著書です。

★★グリーフサポートせたがや連続講座講演録★★

『“いま”を生きる グリーフとともに～喪失体験は過去形、哀しみは現在進行形～』の

【目次】 第1回 哀しみに寄りそい ともに生きる～地域におけるグリーフサポートとは？

入江 杏さん（ミシュカの森主宰、上智大学グリーフケア研究所非常勤講師）

西田 正弘さん（あしなが育英会 東北事務所長）

第2回 死別による喪失体験とグリーフ

加治 陽子さん（グリーフサポートせたがやメンバー）

ケンタロウさん（「LGBT・いぞくの会」を行なうドント・ウォーリー代表）

森 美加さん（暮らしのグリーフサポートみなと代表）

第3回 さまざまな喪失体験とグリーフ

鹿目 久美さん（「母ちゃんず」メンバー、福島からの自主避難者）

山本 潤さん（SANE 性暴力被害者支援看護師）

新澤 克憲さん（就労継続支援B型事業所「ハーモニー」施設長）

特別収録

『わたしの気持ちとあなたの気持ち～エモーショナルリテラシーと自尊心を考える～』講演録

発行記念講演会&ミニライブ

近藤 卓さん（日本いのちの教育学会・会長、日本学校メンタルヘルス学会・理事）

本体価格 1000 円 新書判・本文 200 頁（予定） 発行 グリーフサポートせたがや

ご注文は griefsetagaya@yahoo.co.jp、FAX：03-6453-4926 まで。

★★『若者が変える社会 少しだけ「政治」を考えよう！』（島村輝・他著 松柏社）

本書は若者たちに「政治参加」を声高に呼びかけるものではない。ふと立ち止まって、そもそも、「政治」とはなんのためにあるのか、誰のためにあるのか、そして、「社会」は変えることができるのか—こうした根源的な問いに、日常の中から自分なりの答えを探すためのヒントを伝えたい、そんな想いで企画された。大学教員の、大学内外での市民活動が、大学での正規授業に結びつき、分野を超えたつながりのなかで行われた授業の記録として、学生、教員を問わず大学関係者の方々、また広く市民に読まれるべき本。

★【著者プロフィール】島村 輝(しまむら てる)

フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科教授。専門は、日本近現代文学、芸術表象論。

小林多喜二、その他プロレタリア文学、モダニズム文学関係の研究など多数。平和問題、社会問題についての発言や行動も多い。

著書に『心のノート』の言葉とトリック』(2005年、つなん出版)、林京子『被爆を生きて—作品と生涯を語る』(聞き手、2011年、岩波ブックレット)など。

★★★★★編集後記★★★★★

◆2018年度春期グリーフケア公開講座上智大学グリーフケア研究所「悲嘆」について学ぶ 満席御礼◆

「これまで経験したことのない…」と、テレビや新聞等で報道される災害が、日本だけでなく世界中で続いています。そのような現代に生きている私たちは、日常生活の中で、無意識のうちに不安と恐怖を感じているのではないのでしょうか。また、個人的には、家族や親せき、友人の病気や死別と言う、思いがけない出来事に遭遇することもあります。そのような辛く苦悩に満ちた体験をした後の悲嘆感情は、決して病気ではありませんが、とても辛く、悲しいものです。そのような感情をどのように乗り越えたらよいのか、様々な分野の方々よりお話を伺う事によって、より深い理解を深め、ともに歩めるための公開講座が、上智大学グリーフケア研究所による「グリーフケア公開講座・悲嘆について学ぶ」で、年に2回、東京と大阪で開催されています。コーディネーターは、高木 慶子先生(上智大学グリーフケア研究所 特任所長)です。

東京開催の春期講座は、2018年 5月10日(木)～7月19日(木)全10回で、葉 祥明さん(絵本作家)「生き抜くための100の智慧」、清水 康之さん(特定非営利活動法人自殺対策支援センター ライフリンク代表)「自死遺児たちから教わったこと」、上野 創さん(朝日新聞記者・精巣腫瘍(がん)経験者)「がんと向きあって得る気づき」、日野原真紀さん(故 日野原重明先生を看取ったご次男の奥様)「義父 日野原重明と過ごして」など多士済々な方々を講師に迎え、演題も多岐に渡ります。私、入江 杏(上智大学グリーフケア研究所 非常勤講師 世田谷区グリーフサポート検討委員)も5月31日に「悲しみを生きる力に」と題してお話させていただきます。この公開講座で始めてお話させて頂いたのは、大阪の会場で、あの大震災の翌月、4月22日のことでした。4月25日の福知山線の事故があった事件日を前に、悲嘆を抱える被害者遺族のみならず、加害者側のJRの方々も、同じ場を共有して「悲嘆=グリーフ」から学ぼうとする講座でした。当然、震災が起こることなど夢にも思わず、お引き受けしてしまった仕事でしたが、宗教学者の山折哲雄先生の後を受け、私には語る言葉がない・・・と言葉を詰まらせたところ、高木慶子先生が「あなたにはできるからお声かけたのです」と励ましてくださったことは忘れられません。数百人の教室が満席で、震災後、多くの方々が一層「グリーフケア」に関心を深めていくのを肌で感じたのを記憶しております。日頃のグリーフケアへのベグライテンの皆様への御支援に心から感謝申し上げます、編集後記にかえさせていただきます。

今回の会報もカレンダーなどは私の記名があるもの以外は皆様からの情報を並べただけになっております。私が選択しているわけでもなく、できる限り、先着順で掲載させて頂いておりますが、大容量になってしまい、やむを得ず、今回は載せられなかったものもあります。感想、情報をお寄せくださった方々には感謝申し上げます。素人の編集なので、HPなどで、日時と場所をご確認の上、お出かけください。

(編集担当：ミシュカの森 入江 杏)

お詫び：いつものことながら、今回は特に原稿を出す時期が遅れ、とうとう5月公共例会に間に合いませんでした。衷心よりお詫び申し上げます。(関根和彦)

★★★★★

会報に関する連絡先：メールでは入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合：関根まで 090-9146-6667